

(広報資料)
経済同時

令和3年11月29日
京都市総合企画局
〔総合政策室 ☎222-3178〕
京都市都市計画局
〔歩くまち京都推進室 ☎222-3483〕

公民連携・課題解決推進事業「KYOTO CITY OPEN LABO」

「四条通地下道 SOCIAL ART MUSEUM」による四条通地下道の活性化について

京都市では、公民連携・課題解決推進事業「KYOTO CITY OPEN LABO」(※)において、民間企業等と行政が連携して、様々な課題解決に取り組んでいます。

この度、本市都市計画局が提示した「四条通地下道活性化事業」の課題に対し、株式会社ヘラルボニーから連携提案がありました。これにより、京都市域で活躍している障害のあるアーティストの作品を四条通地下道で掲出し、地下道を彩り豊かな空間へ変化させることを目指します。

記

1 企画概要

四条通地下道を「通り抜けるだけの空間」から「目的地」となり得る空間へ転換するため、京都市域で活躍している障害のあるアーティストの作品(45点)を地下道の柱や壁面へ掲示することで、地下道を彩り豊かな空間へ変化させるとともに、障害のあるアーティストと市民、観光客が繋がるきっかけを提供します。

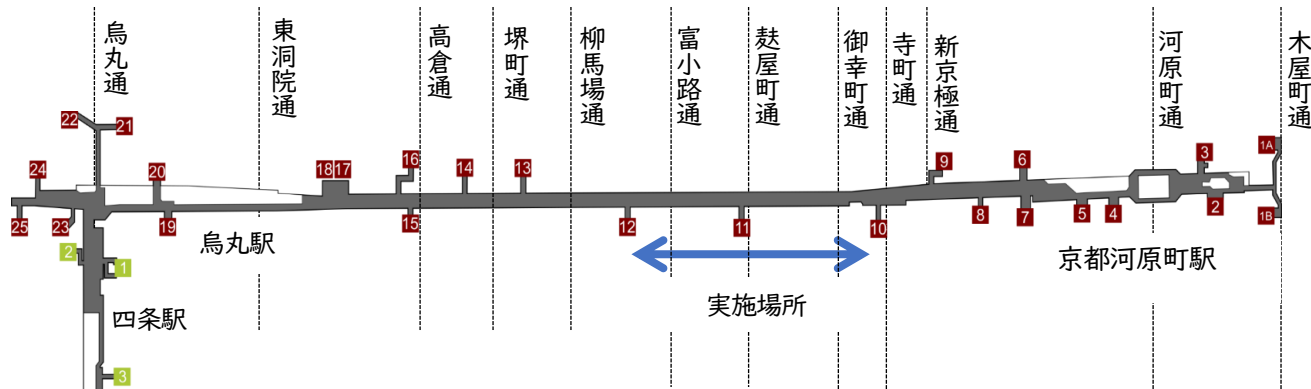
(事業実施者：株式会社ヘラルボニー、協賛企業：京都中央信用金庫、京都信用金庫)

2 掲出期間

令和3年12月2日(木)～令和4年1月31日(月)

3 実施場所

四条通地下道(10番から12番出入口の間)



四条通地下道略図

4 連携提案団体

企業名：株式会社ヘラルボニー / HERALBONY Co., Ltd.

所在地：岩手県盛岡市開運橋通 2-38

代表者：代表取締役社長 松田 崇弥，代表取締役副社長 松田 文登

WEBサイト：<https://www.heralbony.jp/>

企業概要：「異彩を、放て。」をミッションに、福祉を起点に新たな文化を創ることを目指す福祉実験ユニット。日本全国の障害のある作家とアートライセンス契約を結び、2000点以上のアートデータを軸に作品をプロダクト化するアートライフブランド「HERALBONY」、建設現場の仮囲いに作品を転用する「全日本仮囲いアートミュージアム」など、福祉領域の拡張を見据えた多様な事業を展開。社名「ヘラルボニー」は、知的障害がある両代表の兄・松田翔太が7歳の頃に自由帳に記した謎の言葉。「ヘラルボニー」には「一見意味がないと思われるものを世の中に新しい価値として創出したい」という意味を込めている。

<参 考>

展示を予定しているアーティスト及びその作品例



(左) 南保孝「無題」

(右) 衣笠泰介「旅に出ます」

<参 考>

公民連携・課題解決推進事業「KYOTO CITY OPEN LABO」とは

本市が抱える様々な行政課題その他の社会課題に対し、民間企業等から課題の解決に資する技術やノウハウ、アイデアなどを募集したうえで、課題提示部署と民間企業等と一緒に、実証実験や具体的実践等により課題解決に取り組む仕組みです。

WEBサイト「KYOTO CITY OPEN LABO」

URL：open-labo.city.kyoto.lg.jp

<二次元コード>



「KYOTO CITY OPEN LABO」トップページ

<問い合わせ先>

○公民連携・課題解決推進事業等についての問い合わせ

京都市総合企画局 総合政策室 Tel.075-222-3178

○四条通地下道活性化事業等についての問い合わせ

京都市都市計画局歩くまち京都推進室 Tel.075-222-3483